

施策評価シート(対象:H28年度実施施策)

H29年度評価

施策名	まちの魅力を生み出す景観づくり			総合計画コード	533
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	都市建設部(開発建築課、みどり公園課、道路整備課)				

1. 施策概要

めざす 目的成果	朝霞らしい魅力ある景観をみんなでつくり、守ることで、誰もが住み続けたい、訪れたいと感じられるまちとなっている。				
施策概要	朝霞市景観計画に基づき、地域の特性を生かし、斜面林、黒目川などの自然や伝統的な行事が行われる社寺、文化財などの歴史的風土などを景観資源として保全・活用するとともに、鉄道駅や幹線道路周辺などの拠点的な区域においては、多くの人々が交流するにぎわいや活気を感じられる景観の創出に努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン	計画期間	H 16 年度	～ H 37 年度
		朝霞市景観計画		H 28 年度	～ H 年度
		朝霞しみどりの基本計画		H 12 年度	～ H 37 年度

2. 実施結果

H28年度の 施策の実施内容	・都市計画審議会を開催した。 ・景観審議会を開催した。 ・景観について市民との意見交換会を実施した。 ・朝霞市景観計画の冊子の作成及び配布を行った。 ・寄附金や募金などをみどりのまちづくり基金に積み立てた。 ・黒目川において、桜並木や黒目川まるごと再生プロジェクトにより整備された広場等の管理を行うとともに、健康遊具を整備した。					
H28年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心な まち	市民・事業者・行政が協力し合いながら市の景観づくりに取り組み、誇りと愛着の持てるまちづくりを行った。				
	子育てが しやすいまち	安全で安心な道路を作り、子育てに適した公園や自然環境を保全・提供することができた。				
	つながりのある 元気なまち	公園や河川、また駅周辺において、人々が集い賑わいのある場所やイベントを提供することができた。				
	自然・環境に 恵まれたまち	河川や里山などの自然環境を守り、また武蔵野の面影を残す緑地を残し、四季の変化や郷土の特色を提供することができた。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度(見込)	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
		0	—	—	—	—

指標名 (説明)		単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
			目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
			実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)
①	景観の満足度	%	—	—	—	—	40
	(説明)市民意識調査の結果報告書の景観の満足度(満足している、まあ満足しているの合計割合)※5年に一度、調査を実施予定		—	—	—	—	—
②							
	(説明)			—	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ☐ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ☐ B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ☐ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ☒ C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) ・良好な景観形成に向けて、市民との意見交換会や景観審議会を開催し、多くの意見や今後の取組について意見を聴くことができた。 ・朝霞市景観計画に基づく届出制度により、地域の特性に応じて周辺景観を阻害しないよう規制・誘導を図った。 ・黒目川花まつりは市民に定着したイベントとなり、また黒目川まるごと再生プロジェクトにより整備した広場等の管理について、県、市、市民団体、自治会の連携が図られ、適切に行われた。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☐ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ☐ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ☐ B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ☐ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ☒ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) ・朝霞ならではの魅力ある景観を形成し、住みたい、住み続けたいまちとしていくため、景観計画に位置づけられた施策を着実に実施するとともに、景観審議会や市民との意見交換会を継続的に実施する必要がある。 ・朝霞ならではの景観を形成する黒目川桜まつりや彩夏祭などの年中行事はすでに市民に定着しており、多くの方々が毎年楽しみにしているため、継続していく必要がある。 ・特別緑地保全地区などの緑地の管理を市民団体が行っており、自然環境に対する市民ニーズは高まっている。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・景観まちづくりは、地域の実状に沿った個性あるまちづくりを推進するため、市民参加は必要不可欠であり、市民・事業者・行政が連携、協働して取り組んでいく必要がある。 ・良好な景観を形成していくには長い時間を要するため、景観計画の内容を広く周知し理解を求めていく必要がある。

4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☐ 重点化 ☐ 内容の見直し						
	(説明) ・景観計画に位置づけられた施策の推進に向けて、市民への周知啓発を図るとともに、景観審議会や市民意見交換会を継続的に開催する。また、市民・事業者・行政の連携、協働を進めるための取組を検討する。 ・朝霞ならではの景観を形成する年中行事を引き続き実施していく。 ・黒目川桜並木や黒目川まるごと再生プロジェクトで整備された広場等の管理を適切に行う。						
行政と市民の役割分担	☐ Ⅰ 行政の関与(役割)を拡大 ☒ Ⅱ 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ☐ Ⅲ 市民の関与(役割)を拡大						
	(説明) 景観まちづくりは、地域の実状に沿った個性あるまちづくりを推進するため、市民参加は必要不可欠である。市民・事業者・行政が協働で取組む必要がある。また良好な景観を形成するには長い時間を要するため、景観計画の内容を広く周知し理解を求めていく必要がある。						
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名		総コスト(事業費＋人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性
			H27決算	H28決算見込			
	1 都市計画総務事務事業		—	—	4	3	現状のまま
	2 景観まちづくり推進事業		—	—	5	4	現状のまま
	3 みどりのまちづくり基金積立事業		—	—	4	3	現状のまま
	4 建築行政事業		—	—	4	4	現状のまま
	5 黒目川桜並木管理事業		—	—	5	5	現状のまま
	計 (単位:千円)		0	0	—	—	—
☐ 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載							
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【景観審議会】朝霞市景観計画に基づき、的確に施策を推進していくよう求められている。						
	【外部評価委員会】 今後、景観づくりに取り組もうとする団体を認定し支援していくとのことであるが、そのような団体との協働を着実に進め、その活動状況や進捗状況について市民に対し報告を行ってほしい。(自然・環境に恵まれたまちに関する所見より抜粋)						
部長の意見	朝霞ならではの景観を生かし、良好な景観形成を図ることで、住みたい、住み続けたいと感じるまちにしていけるため、朝霞市景観計画に掲げられた施策を的確に実施するとともに、市民・事業者・行政の連携、協働による景観形成を進めるための取組を推進する。また、景観計画策定時に課題として残された景観づくり重点地区の検討を進めていく。さらに、朝霞ならではの景観を形成している黒目川沿いには、桜並木や黒目川まるごと再生プロジェクトで整備を行った広場等があり、適切に管理を行うことで、良好な景観を形成するだけでなく、健康づくりや自然とのふれあいの場にもしていく。						